

中津卓球ジムだより

全九州小学生選手権 (杵築市)

山口彩実さん 快進撃の準優勝

男子団体あと一歩だった

8月27日の団体戦は、男子で諸君が相手エースを追い詰めるなどもしかしたら予選リーグ突破も期待されましたが、あと一歩及ばず。女子はAチームが厳しいパートナーもあり1勝どまり。結局男子チーム、女子のABチームとそれぞれ1勝でした。

山口さん優勝にあと一歩及ばず

2日目の個人戦で快進撃を続けたのが山口彩実さん。福岡県2位の中村選手や以前の対戦でストレート負けしている熊本の境選手を圧倒。準決勝まで1セットも落とさない戦いでした。決勝では先日の全日本選手



団体戦に臨む男子チーム



決勝で栗山選手と対戦する山口選手 (手前)



出場した選手 貴重な体験になりました

<精神面>

- ・ミスをしてもしっかり見えない。(ベンチを見て笑みさえ)
- ・いいボールが入ると畳みかける
- ・接戦で戦術の転換ができる

<技術面>

- ・独自のサーブがある(点が取れる)
- ・ラリーに強い(フォア・バックのバランスが良い)
- ・レシーブミスが少ない

権で3位になった栗山選手にセットカウント2対1でリードしたもののあと一歩及ばず準優勝。この快進撃には要因があります。参考までに彩実さんの良かった点を紹介します。

アルジ ジム主の卓球回顧録

悪戦苦闘した大学の授業

今回は卓球以外の話題を一つ。

大学時代は、授業にはまじめに出ましたが、てこずった授業がありました。体育学部は当然のことながら、体育実技の授業が多くなりますが、中でもハードル走と水泳には苦戦を強いられました。

水泳は小学校から高校まで学校にプールがなかった関係で川での泳ぎで身につけたクロールしかできず、平泳ぎは大学に入って初めて経験する始末。その平泳ぎで3分間125M以上のノルマがクリアできず、3年目でやっとの思いで合格しました。今でもあのとき

の感激は忘れません。

また水泳以上に苦労したのがハードル走。高校生の競技用ハードルと同じ条件で、設定時間をクリアできず大変でした。結局4年生になるまで単位が取れず、27歳の私は18歳の1年生と一緒に授業を受けていました。私と同じ境遇の同級生が10人以上いたのは少し救われました。最後は女子用のハードルで合格。背に腹はかえられない心境でした。

ハードル走で苦労した分、教員になって顧問をした陸上では、ハードルの選手が九州大会に出場する「成果」を得ました。どこでどうなるかわかりません。



磨きたい！ボールタッチの感覚

卓球は感覚のスポーツでもあります。そして回転を駆使して競う競技でもあります。当然のことながら、技術向上にはボールタッチの感覚を養うことが大変重要な要素になります。

このボールタッチの繊細な感覚(技術)を磨くためには、「時間をかける」ことや「いろいろなボールに触れる」体験が必要なことは言うまでもありません。

その上で大切なことは、**体験をしながら振り返り力があるかどうか**、です。ミスをして何も考えない選手は伸びません。それには選手がどれだけ上達したいかという卓球への思いが関係します。感覚を磨くためには心の感性も大切な要素になると思います。



石川選手の繊細なボールタッチ